

ASGMに取り組むために

水銀条約は水俣の悲劇の教訓を適用すべきである

(熊本、日本 2013年10月10日)

世界で初の国際水銀条約は、水俣の悲劇の教訓を適用することによって、小規模金採鉱（ASGM）で使用される水銀に対応すべきであると、本日、国際NGOの連合体であるIPENは述べた。

“将来の水俣の悲劇は、現在、それぞれの国が数百の小規模金採鉱現場を持つ80近くの諸国で起ころうとしている。これらの現場は、水銀の大気への最大の排出源であり、世界で最大の使用で場所あり、我々はすでに、女性、小さな子ども、家族、そして地域社会の中に、水銀汚染による被害が出ていることを見ている”と、インドネシアのBaliFokusの上席顧問であり、IPENのASGM主担当であるユーユン・イスマワティは述べた。

IPENは、水俣の水銀中毒の悲劇からの4つの主要な教訓をASGMに適用するよう勧告する。

1. **問題が深刻になる前に行動せよ。**すでに、我々は、金採鉱地域で、女性、子供、そして男性に水銀中毒の兆候をすでに見始めている。我々は、水俣であったように、我々が見たことを確認するために20年も待つ必要はない。不作為のコストは非常に高くつく。水銀の代替があり、我々は今、その使用を開始すべきである。
2. **都市や国家での水銀の使用を理解し、監視せよ。**水俣の悲劇とは異なり、ASGMでの水銀汚染源は広範囲に及んでいる。この汚染源を管理する唯一の方法は、小規模金採鉱者への水銀供給を漸次制限し、廃絶することである。供給の制限は、金採鉱者が水銀に支払う価格を上昇させ、その結果、彼らが水銀使用を削減し廃絶する方向に導くことになる。輸出国は、危険を他国に輸出することはやめるべきである。
3. **汚染場所を管理するのに20年も待つな。**水俣の汚染場所の浄化は、水俣病の問題が発見されてから20年後に開始された。これでは遅すぎる。政府は今、ASGM場所における同様な汚染を予測し、防止するための計画を立てるべきである。さもないと、現在の世

界のゴールドラッシュの遺産は、世界中に、数千のひどく汚染された現場と荒廃した地域社会もたらすであろう。”エコパーク”はその回答ではない。またそれを建設するために要した金でもない。

4. **水銀汚染は防ぐことができる。**水銀中毒になる人がいてはならない。水銀が使用されている地域で働く人々の水銀レベルを監視するなら、彼らが被害を受ける前に行動を起こすことができる。

”水銀条約は、水銀汚染は深刻な脅威を人の健康と環境にもたらし、それに対応するために、調整のとれた世界の行動が必要であるという世界の合意を示すものである。いくつかの条項は法的拘束力のある義務を求めているが、他の条項は措置をとるよう”努力する”ことを求めている。このことは、各国政府は、法的な約束でなくても、条約の全ての条項を完全に実施する倫理的な義務を有することを意味する。

“IPEN は、国際的にそして自国で、危険な有害物質を最小にし、可能なら廃絶するために活動する世界116か国700の団体から構成される国際的NGO連合体である。IPENは3年間にわたる水銀交渉に関わってきた。

####